ダイジェスト Vol.1

地域の各種団体とその活動の紹介

私たちの暮らす地域では、校区や町内にさまざまな団体があり、それぞれに大切な役割を担っています。「名前は聞いたことがあるけれど、どんなことをしているの？」。そんな疑問にお答えするために、まちづくりのために尽力している各種団体と、その活動内容を紹介します。

今さら聞けない地域活動の疑問・質問

What's まちづくり

2018年7月6日号掲載

「校区自治協議会」って何？「町内自治会」って、どんな活動をしているの？

私たちがお答えします！

熊本市地域活動推進課・地域づくり班
福永雪乃さん（右）

熊本市中央区総務企画課・地域班
塚本美香さん（左）

「校区単位のまちづくり」に欠かせない〝地域の要（かなめ）〟

校区自治協議会」は、各町内自治会をはじめ、校区の社会福祉協議会、女性の会、老人クラブ、青少年健全育成協議会、地域公民館、防犯協会などの各種地域団体で構成されています（左図参照）。

かつては市内の町内自治会や校区の各種地域団体は、別々に活動していました。しかし、平成16年から校区自治協の設置が進み、各種地域団体がヨコのつながりを大切にしながら、地域活動の推進や地域課題への対応を行い、さまざまなまちづくりに取り組んでいます。熊本市には現在、92校区・4地区があり、その全てに校区自治協が設置されています。

美化・清掃や防犯灯管理…多岐にわたる分野で活動

校区自治協の中核を担うのが町内自治会。町内の美化・清掃や防犯・交通安全、地域のごみステーションや防犯灯の管理、夏祭りなどのイベントを通した住民交流の場づくりなど、さまざまな分野で活動しており、地域のコミュニティづくりに大きく貢献しています。ただ、近年は役員の高齢化や担い手不足のほか、町内自治会の加入率低下（現在、熊本市の町内自治会加入率は85％程度）などが課題となっています。

〝地域の要〟ともいえる町内自治会の活動ですが、それが成り立つのは地域で暮らす一人一人の協力があればこそ。皆さんもぜひ町内自治会などの地域活動に興味を持って、「自分にできること」を探してみませんか。

校区自治協や町内自治会に関するお問い合わせは☎096（328）2036【市民生活部地域活動推進課（地域づくり班）】または、各区の総務企画課まで

町内や校区で行われるさまざまな活動や取り組みに町内自治会が関わっています！

地域公民館
町内自治会
老人クラブ
防犯協会
PTA
子ども会
公園愛護会
体育協会
消防団分団
女性の会（地域婦人会）
交通安全協会
民生児童委員協議会
青少年健全育成協議会
社会福祉協議会
まちづくり委員会
地域コミュニティセンター運営委員会

地域活動 まちづくり活動

地域の祭り、校区運動会、敬老会、伝統文化の継承、ごみステーションの維持管理、防犯・防災活動、いきいきサロン・子育てサロン等の福祉活動など

「地域」と「世代」をつなぐ 町内自治会を知って、参加して！

町内自治会があることのメリットは？

- ごみステーションを管理するなど、地域の美化に貢献しています。
- 防犯パトロール等を行うことで、犯罪抑止や交通事故防止に貢献しています。
- 地域活動に市民が参加することで、地域に顔見知りができ、世代間交流が図れます。

地域は若い力とアイデアを求めています！

若い世代では、子ども会やPTAを通じて知り合った「ママ友・パパ友」と一緒に活動するのが楽しくて、そのまま自治会活動に参加する人もいます。

また、最近増えている「おやじの会」など“お試し”的に地域活動に関わることで、地域とのつながりや信頼関係が生まれ、若い世代の意見も取り入れてもらいやすくなります。

※写真はイメージです

町内の「子ども会」って、保護者は大変そう…。入会するメリットはあるの？

What's 今さら聞けない地域活動の疑問・質問 まちづくり

2018年6月8日号掲載

夏休みのラジオ体操、資源物回収、レクリエーションなど、さまざまな活動を行っている子ども会

実は私も、今年「子ども会」デビューしたんです！

探検隊メンバー
石井 友美さん

子どもを通じて地域とのつながりも

現在、熊本市には約900町内があり、そのうち子ども会育成協議会（以下、協議会）に加盟しているのは約440町内です。

熊本市の子ども会は、昭和28年ごろにできたといわれています。戦後の荒廃期に、行政だけでは行き届かない子どもたちの健全育成や見守りなどを地域で担おうと始まった組織です。

現在は、多くが各校区の自治協議会の構成団体として活動していますが、中には小学校PTAのもとで活動している子ども会もあります。

社会の変化に伴い加入率低下などの課題も

子ども会の入会はあくまで任意です。各町内子ども会では、田植えや野外遊びなどの体験活動や伝承遊びなど、それぞれに工夫を凝らして取り組んでいます。

また、協議会でも年数回イベントを開催しているほか、イベント運営などに携わってくれる中・高校生（ジュニア・リーダー）を養成し、将来の子ども会活動の担い手育成につなげています。一方、近年は、共働きの保護者の増加や、個人情報保護の強化によって対象世帯が把握できないことなどで、加入率低下が進んでいます。

子ども会は、異年齢交流や地域との交流など、子どもたちにとって貴重な経験になるだけでなく、その保護者も地域とのつながりを持てる活動です。ぜひ皆さんも参加してみてください。

子ども会や入会に関するお問い合わせは同協議会☎096(288)1164

私がお答えします！

熊本市子ども会育成協議会
事務局長
上地 憲正さん

探検隊・石井さんの取材メモ

子ども会は親も成長できる“場”

今春、子どもの小学校入学を機に子ども会に入会したばかりで、分からないことばかりでしたが、協議会で詳しい話が聞けてよかったです！　子ども会といえば、「保護者が大変」というイメージだったけれど、保護者にとってもメリットがあり、成長する機会になると感じたので、次のようにまとめてみました。

- 地域の人(子ども、保護者、その他地域住民)とのヨコのつながりができる
- 自分が住む町内や地域のことがよく理解できるようになる
- 子ども会を通じて、親子の触れ合いの機会をつくれる

子ども会の活動をもっと活発にするには今の時代に合った活動の仕方を考えていくのも必要ね！

子ども会の活動事例

工夫次第で保護者も“楽しく”活動できる！―田迎西校区

田迎西校区では1～3町内にそれぞれ子ども会があります。子ども会独自のものに加え、夏祭り、校区体育祭、どんどやなど、校区自治協議会と連携した行事も多数あり、活発な活動を展開している校区の一つです。

活動のやりがいについて、「子どもたちに学校とは違う文化的・体育的・社会的な場を提供でき、笑顔で楽しんでくれること」と松下さん。行事の準備など大変な面もありますが、「子どもたちにも準備や運営に関わってもらうなど、工夫しています」(上村さん)。また、「地域のために動いてくれている人がこんなにたくさんいることを初めて知った」(八木さん)など、各種地域団体との関わりを通じて、地域を知るきっかけにもなっているようです。

◀左から田迎西2町内子ども会会長・上村直子さん、同副会長・八木佳奈さん、3町内子ども会会計・松下あやさん

地域の消防団活動を体験

探検隊が体験たい！

2018年6月22日号掲載

校区の安全を守る“火消し”の心意気！

2年前に起こった熊本地震をはじめ、火災、台風、水害といった、私たちの生活に大きな被害をもたらす災害や事故の際に、地域で活躍する団体が「消防団」です。校区で暮らす人たちが自らの手で安全を守る、地域にとって欠かすことのできない活動。普段の消防団はどんな取り組みを行っているのでしょうか。中央区慶徳校区を担当する第15分団の活動に、探検隊メンバーの田中大善さんが同行しました！

私の住む校区でも消防服姿の消防団を目にすると頼もしく見えます！

探検隊メンバー
田中 大善（だいぜん）さん

消 火栓は道路上や歩道など、さまざまな場所にあるため、(場所によって)泥や砂がたまっていたり、蓋(ふた)が固くてなかなか開かなかったりと、それぞれに状況が異なります。そのため、定期的にチェックしておかないと、いざというときに使えないことも…。もちろん、水の出具合なども一つ一つ調べます。

消火栓がさびついて開けにくくなっていることも

田中さんも、実際に栓を開けて水出しを体験。思った以上に栓が固い！

慶 徳校区を受け持つ第15分団は、現在約15人の団員で活動しています。この日は、校区内に約40カ所あるという消火栓の点検活動を〝体験〟させてもらいました。班長を務める山内要さんと共に消防車に乗り込み、「いざ出発！」。ヘルメットをかぶった田中さんは、やや緊張の面持ち…。

校区内の消火栓の位置を落とし込んだ地図をチェックして、校区内を回ります

校 区内の消火栓点検を終えて分団の車庫に戻るとすぐに、乾燥のためつるしてあったホースの巻き取り作業を行いました。20m近くある上に、丈夫な布製なのでとにかく重い！　ほかにも消防団では、火の用心を呼び掛ける夜警や消防車 機材の点検など、普段からさまざまな活動に取り組んでいます。

「こ、これはなかなかキツイですね…」と田中さん

使ったら干さんと、カビの生ゆっとです！

体験後の感想

目に見えない活動こそ大事！

消防団の活動を初めて体験しました。こうした地道な活動が、いざというときに役立つと知り、「目に見えない活動こそ、地域にとって大切」と改めて感じました。何より、「自分たちの地域は自分たちで守る」というプライドが素晴らしい！　（田中さん）

消防団で待っとるばい！

市で約4500人が活動 地域の安全・安心に一役

住民ボランティアで成り立っている消防団は、現在、熊本市に87分団があり、約4500人の団員が活動しています。日頃から消防団が地域で活動してくれるおかげで、住民の皆さんも安心して生活でき、火事などの際には消防士もスムーズな活動が行えます。

興味のある方は、ぜひ近くの消防団をのぞいてみませんか。

■「消防団」活動に関するお問い合わせは☎096(372)2770［熊本市消防局警防部警防課消防団班］

私たちが活動しています！

熊本市消防団(慶徳校区)・第15分団
班長 山内 要さん

30～40代にできる地域貢献の一つ！
―熊本市消防団(慶徳校区)・第15分団

第15分団では、消火栓点検だけでも年に4～5回実施しています。夜警なども含め、消防団が地域を回ることは、防犯の面でも地域の皆さんに安心感を与えています。消防団は、私たちのような30～40代の元気な世代が必要とされる組織で、取り組みやすい地域貢献の一つだと思います。支給される制服を着ると、“火消し”になった気分で身が引き締まります。